

絆

きずな

図書館ボランティアだより 第42号 令和3年(2021年)10月1日

発行 阪南市立図書館フレンズ広報部会

図書館フレンズ 10月の活動予定

* 入会などのお問い合わせは、阪南市立図書館 図書館フレンズ事務局
(072 - 471 - 9000) までご連絡ください。

部 会	活動内容・日時	場所など
配架部会	返却本を本棚にもどす 開館日：午前9時～10時	図書館内
書庫入れ部会	書庫で返却本の整理をする 毎週火曜日：午前10時～12時 毎週金曜日：午前10時～12時	図書館3階
図書整備部会	本の修理など 毎週月・金曜日 午前10時～12時・午後1時～3時	図書館内
館内装飾部会	児童コーナーの飾りを制作し飾りつけ 最終火曜日午前中	図書館内
広報部会	広報「絆(きずな)」の編集・発行 「絆(第43号)」編集会議 10月17日(日) 午後2時30分～3時	オンラインで行います。
生け花緑化整備部会	館内の生け花や観葉植物の世話 随時	図書館内
ブックスタート部会	絵本パックの配布 休止中	保健センター
おはなしでてこい	お話・絵本の読み聞かせ・紙芝居など 毎週土曜日午後2時～2時20分	図書館内 紙芝居コーナー
はじまり はじまり♪紙芝居	紙芝居の上演 10月3日(日) 午後2時～2時20分	図書館内 紙芝居コーナー

*活動日は、新型コロナウイルス感染症の急拡大によって、変更になる場合があります。

カット 河野芳夫



図書館フレンズ紹介 わたしたちの活動



こんなことをやっています。一緒にやりませんか？

図書整備部会

私たち図書整備部会には、主に3つの作業があります。

① 装備（そうび）

本、雑誌等に専用シートをはりつけます。

（汚れ、傷みを防ぎます。）



② 修理（しゅうり）

はがれたところは、ボンドで、破れは、専用テープで修理をします。

（図書館の本をはがしたり、破ってしまったときは、自分で修理しないで、返すとき、図書館の職員にお知らせください。図書館で、修理します。）



③ 清拭（せいしき）



本の汚れを取り除きます。先ず、洗剤を含ませたタオルで拭き、続いて水拭き、最後に乾拭きをして仕上げます。



活動日：毎週 月曜日・金曜日
午前10時～12時、午後1時～3時
（曜日、時間帯を選べます。）

連絡先：阪南市立図書館
072 - 471 - 9000

今は新型コロナ禍で活動も制限されますが一日も早い終息を願い頑張っています。関心を持たれた方は、是非、一度お立ち寄り下さい。（図書整備部会）

広報部会座談会 ―広報「絆」発行の意義―

本荘（部会長）：こんにちは。新型コロナのせいで、直接お会いできておりませんが、お元気のことと思います。最初に、新しく入っていただいた河野さんを紹介いたします。河野さんは、カットを描くということで入っていただきました。

河野（カット係）：初めまして。広報部のことは何も分かりませんので、カットを描くということで入れてもらいました。よろしく願いします。

池上（副部会長・カット係）：広報「絆」は、「はんなん紙芝居」に入れてもらって初めて知りました。私も、カットを描くということで入れてもらいました。河野さんも入っていただき心強いです。よろしく願いします。

本荘：広報部会は、広報「絆（きずな）」を毎月発行しています。

内容は、図書館フレンズの各部会の活動を紹介することを中心に、

- ① 第一に図書館フレンズの会員相互の理解と親睦をふかめ、
- ② 同時に、多くの市民の図書館ボランティアへの参加を呼びかけしていきます。

広報は、月刊になりましたが、これまでの広報と内容に違いはあり



ません。ただ、各部会の紹介だけは、今までより大きく取り上げていきたいと思っています。

橋本（取材・写真係）：そうですね。

各部会の活動の説明は、文章だけでなく、絵や写真をたくさん使うことが必要だと思います。文字も大きくし、読みやすいものにしていきたいと思っていますね。

池上：私の職場で、橋本さんが紙芝居を上演していただいたことをきっかけに「はんなん紙芝居」に入れていただきました。そこから、本当に多くのボランティアが図書館を支えてくれているのだと知りました。私は本職をしながらなので、紙芝居の上演と、「絆」にカットを描くことしかできません。ですから、これからはたくさんの市民の方に図書館を支える活動に参加してほしいと思います。

本荘：私は、高校のとき、橋本さんにさそわれて、拡大写本のボランティアをしていました。パソコンクラブに入っていたので、それが役に立ちました。

カット 池上智子

就職してから、橋本さんに、紙芝居をいっしょにしないかとさそわれました。私は、高校のとき演劇クラブにも入っていたので、それが生かせるのではないかと思って「はんなん紙芝居」に入りました。

今度、広報部会に入って、また、パソコンが役に立つと思っています。

河野：私は、絵が好きで、退職してから油絵を描きたいとずっと思っていました。「はんなん紙芝居」の斎藤さんと友達になり、絵の話をしたら、油絵の道具をいただき、油絵の描き方をいろいろと教えてもらいました。

今度、「絆」にもカットを描いてほしいといわれて、好きな絵を描けるので、喜んでいきます。

橋本：私は、もう都合で図書館フレンズをやめられましたが、広報部会と図書整備部会に入っておられた方にすすめられて広報部会に入りました。

私は、小学校でPTAの「お便り」を毎月発行する係をしていました。

それまで、肉筆で書き、それをファックスで製版し輪転機で印刷し、配布していましたが、ワープロで製版することになって、ローマ字打ちをしなければならなくなりました。

パソコンは、50万円もする時代でしたから、とても手が出ませんでした。

そこで、学校に備えられていたワープロで「PTA便り」を打ちながら、ローマ字打ちを習得しました。

同僚の先生が、定規を片手に打ち方を指導してくれました。間違えたなら、指をたたかれそうな恐怖に襲われながらやりました。でも、実際には定規で打たれるようなことはありませんでしたが……

おかげでパソコンも、ワードで文章を打つ程度のことではできるようになりました。彼には、感謝しております。

「絆」を図書館フレンズの会員の皆さんのものにするには、会員の皆さんの書いたものを掲載することが一番です。そのために、皆さんから原稿をいただき、掲載していきたいと思っています。

本庄：皆さんそれぞれ特技を生かして広報部会に参加していただいているのですね。大変ありがたいです。

これから、ますます広報「絆」発行の意義は大きなものになっていくと思います。図書館フレンズの皆さんや市民の方が、発行を待ってくださっているような「絆」にしていきたいですね。

本日は、お忙しい中、座談会に参加していただきありがとうございます。



カット
河野芳夫

「林住期」を迎えている私

今井晴美



四住期

古代インドの人生論に「四住期」があることを知りました。

人生を4つのライフステージに分け、亡くなるまでに4つのライフステージを経ることができれば幸せだという、人生の道しるべを示す考え方で

第1ステージは「学生期（がくしゅうき）」。

師について学び、禁欲的な生活を送る時期。

第2ステージ「家住期（かじゅうき）」

結婚し家庭のために定年まで職業に専念すること。

第3ステージが「林住期（りんじゅうき）」

人生最高の期間だそうです。経済や家庭の安定を経た後、一時期家族と離れ、林の中で瞑想するもよし（林住期の語源）、音楽や好きな旅行をしたり、自分再生のために、今まで出来なかったことを多くの中高年がしていけば、社会も変わるかもしれない。

第4ステージは「遊行期（ゆぎょうき）」

聖者のみちです。さて第4ステージ

まで進める方は、どれだけいるでしょう。

最近では「終活」として「遊行期」に近い生き方を目指す人が増えてきているとか。

「素敵な生き方ができたね」と人生を振り返ることができるように、自分自身と向き合いながら、行動に移してみたいものです。

「林住期」の私

さて、「林住期」真ただ中の私、安易な日々を送るのはまだまだ。生きがいと健康のため、新しいチャレンジを試みたり、また、いくつかのボランティア活動をさせていただいております。

ボランティア活動は、他人への奉仕だと思われがちですが、活動を通じて社会へのつながりを持ち、自分の経験を役立てることで、自分自身の活性化につながります。

「林住期」のみなさん、シニアのパワーを地域に!!



カット 河野芳夫

「作って飾るん隊」と リサイクルブック “つながり” でボランティアをしました



大阪府立泉鳥取高等学校

7月、作って飾るん隊の活動に参加しました。学校で、ゲンゴロウや蝶々や蟻などを作って、サラダホールの装飾をするというものでしたが、様々な年齢層の地域の方々や他校の生徒さんと一緒に、アイデアを出しながら飾りつけをする作業は、学ぶ事が多くとても楽しい時間でした。



← 作業を終えた後、りんくう翔南さんの皆さんと。



↑ 様々なまるを、バランスよく、貼っていく。



↑ 子どもたちと一緒に飾りつけ。

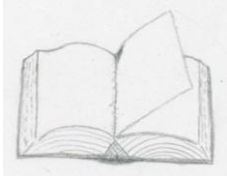
→ ボランティアの方達とまるを分ける作業。



カット 泉鳥取高校生



そして、「作って飾るん隊」の活動終了後に伺ったリサイクルブック“つながり”で、夏休み運営ボランティアをする事になりました。おススメ本のコーナーに好きな本を置かせてもらったり、接客させて頂いたり、一番楽しかったのは値札を張る作業です。そして感じた事は、ボランティアの皆さんの本への深い想いです。冬休み、又参加させて頂きたいと思います。



↑ 入口です。



↑ 本の仕分け作業。



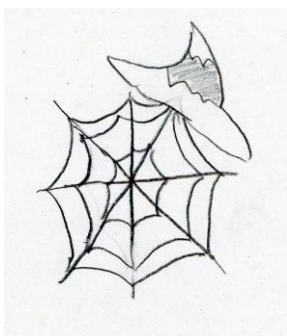
↑ 本棚の整理。



↑ 会計の仕方を教えてもらう。



↑ 5年目のディスプレイを作らせていただきました。



こんな話があります(2)

ひらがなは、『はだしのゲン』で

橋本一郎

数年前に、『はだしのゲン』という被爆少年のマンガが話題になりました。

多くの小学生たちに読まれているマンガです。

大変リアルに被爆の様子が描かれていますので、「子どもたちには、読ませるべきではない。」という意見もありました。

戦争の悲惨さや、原爆の悲惨さを子どもたちに語ったり、絵や写真を見せたりするときは、十分、気を付けないと本当に子どもたちを、恐怖に陥れるだけの結果しか招かないことがあります。

3年生の子どもに、戦争の話をしたら、ある子どもが、飛行機の音にすら恐怖を感じるようになったと、親から苦情を受けたことがあります。

ある市では、図書館に置いてあった『はだしのゲン』を回収したり、また、戻したりと、混乱があったようです。

同僚の学級文庫には、この『はだしのゲン』があったそうです。

その同僚の話では、ひらがなを覚えられなかった子どもが、3年生になって、同僚のクラスに入り、熱心にこの本を読んで、とうとう「ひらがな」を覚えることができたそうです。彼にとっては、『はだしのゲン』は、ひらがなを獲得するために役に立ったすばらしい本だったのです。

私たち、戦中生まれにとって、マンガは、大切な文字への入門書でした。もちろん、ひらがなは、小学校入学までは、全く、誰からも教えられることはありませんでした。

小学校に入学して、マンガを読み始め、初めて日本の歴史も知りました。川中島の戦いは、マンガで詳しく知りました。

マンガは、貸本屋で借りることができました。1日1冊5円か、10円でした。

マンガは、今も、子どもたちに人気がある、文字や社会への入門書です。



編集後記

◇ コロナ禍の中、思うように取材ができな
いもどかしさを感じながらの編集。◇ そんな時、
出会って親しく話げできた人が何人かいらっし
ゃいます。◇ 知らなかった事実を教えていただき、
次々と対談が出来ていくのが何よりの楽しみです。



カット 河野芳夫